

(公財) 地震予知総合研究振興会

柏崎地域の地形及び地質構造の形成過程に関する検討委員会 (第九回)

概要報告

1. 日時 平成25年 2月 7日 (木) 13:30~16:30

2. 出席者

主査	山口大学大学院	教授	金折 裕司
委員	産業技術総合研究所	チーム長	阿部 信太郎(海底活断層)
	産業技術総合研究所	グループ長	荒井 晃作(海洋地質)
	帝京平成大学	教授	伊藤 谷生(構造地質)
	海洋研究開発機構	グループリーダー	高橋 成実(海域地殻構造)
	徳島大学大学院	教授	村田 明広(構造地質)

事務局 (公財) 地震予知総合研究振興会

(敬称略)

3. テーマ

- (1) 新潟地域の後期新生代テクトニクスと地質構造発達史に関する考察
- (2) 総合討論

4. 委員会の状況

これまでの委員会における議論をふまえた新潟地域の褶曲形成に関する検討結果について説明があり、その内容についての議論がなされた。

(1) 新潟地域の後期新生代テクトニクスと地質構造発達史に関する考察

前回討論した柏崎平野周辺地域の褶曲形成史に加えて、新潟平野北部から高田平野に至る間の海域及び陸域について、既往文献に基づき、約350万年前以降の各地の褶曲形成時期とその褶曲を形成したと考えられる断層についての検討を行った結果、以下のことが分かった。

- a 褶曲帯には、時代とともに活動域が移動しつつ発達しているものと、活動域が移動せず同じ場所で断続的あるいは継続的に発達しているものが認められる。
- b 重力のブーゲー異常の不連続線に対応するような褶曲域を横断する方向（北西－南西～西北西－東南東）の非活動的な構造線が、上述の発達過程の異なる褶曲帯や断層の境界になっている可能性がある。

(2) 総合討論

上記内容を含めた新潟地域における褶曲形成、地下構造、地質構造発達モデル等に関する議論を行った。委員からの主な意見は以下の通り。

- ① 中越地震、中越沖地震の震源断層は、断層関連褶曲の考えを踏まえると、従来から指摘されているとおり、地下深部ではほぼ水平な断層（デタッチメント）に収斂しているものと考えるのが妥当である。
- ② 褶曲の形成原因に関しては、昔は地下の地盤の上下動のみで説明していたが、最近の研究を参考に、デタッチメントを使った横方向の動きも含めて考えられ、また、褶曲の形態等はデタッチメントの深度に関係があると考えられる。
- ③ 新潟地域の褶曲形成史には（1）aで述べたような地域性、傾向性がみられる。したがって、柏崎地域の褶曲形成の活動域が時代とともに移動するような傾向性がみられたとしても、それ自体は例外的な事象ではない。

○当委員会では、柏崎地域の地形及び地質構造の形成過程に関して、これまでの議論の内容をとりまとめていく予定。

以 上